

【別添3】メルボルン大学 Forensic Disability (司法障害学) 講座

- Introduction to Forensic Disability と Advanced Practice in Forensic Disability のコースの構成 -

科目名	Introduction to Forensic Disability	Advanced Practice in Forensic Disability
レベル	基礎	上級
講義時間数	1日8時間 x5日間 = 40時間	1日8時間日 x6日間 = 48時間
講義内容	<p>【1・2日目】</p> <p>歴史、障害と犯罪の関係、ステレオタイプや偏見など社会的視点、法的問題</p> <p>【3日目】</p> <p>受講生が臨床で経験したケースプレゼンテーション(最終評価の20%を占める。その他はレポートと授業への参加)</p> <p>各ケースを題材としたアセスメント、リスクアセスメント演習</p> <p>【4・5日目】</p> <p>性犯罪、知的障害と精神障害の重複障害などの事例を用いた演習</p> <p>介入計画の作成演習</p>	<p>受講者は Introduction to Forensic Disability を修了後、各自の臨床現場に戻って、7~8ヶ月間かけて学習内容を実務に適用する課題が課せられている。その上で、本科目において、各自の臨床経験を振り返り、他受講者と共有し、発展的な内容を学ぶ。</p> <p>科目内で学習する項目は基礎編と類似しているが、各テーマについて、実践に基づきながら、より深く、かつ広範に学ぶことが意図されている。</p> <p>アセスメント(特にリスクアセスメント)は基礎編の内容に加えて、性犯罪、放火、女性による犯罪、物質依存、少年犯罪、粗暴犯など、より幅広い題材を取り扱う。</p> <p>また、介入にあたっての倫理の問題も取り扱っており、受講者には高い倫理性を求めており、「もっとも拘束性が低い手段を考え、選択すること」を強調している。</p>
備考	Semester 1 開講	Semester 2 開講 基礎編終了から7~8ヶ月後に受講